

瀋陽駐在員事務所

全国統一大学入試試験～「高考」

中国の学校は、日本と違い9月入学のため、毎年6月から7月に入学試験が行われます。今年は、6月7、8日に「一生を決める」普通高等学校招生全国統一考試、通称「高考」が実施されました。「高考」は簡単に言えば、「全国統一大学入学試験」で、毎年中国全国で1千万人近くの学生が受験します。中国教育部が公布したデータによると、今年の受験生は942万人、過去最多だった2008年に比べて108万人減で、そのうち700万人が大学に進学できるそうです（進学率74.3%）。

試験期間中、試験会場周辺は警察により交通整理される他、テレビ・新聞など各メディア上で「高考」が盛んに報道されるなど、受験生や親だけでなく、国民の多くが興味を示す一大行事となっています。多くの親たちは会社を休んで試験場の入り口まで子供に付き添い、そこでずっと試験が終了まで待ったりし、中には試験会場の近くのホテルを借りる人もいます。こうした親心につけ込む「裏口入学詐欺」も発生し、公安局からネット上で注意を呼びかけられています。全国一斉に実施するという点では、日本の「センター試験」と似ていますが、大学や専攻ごとの二次試験は原則行われていないため、この「高考」は一発で合否が決まってしまう。受験生たちは「高考」受験後、自己採点に基づき複数の志望校を選定して出願することができ、各大学が定める合格点に達した学生が晴れて入ることができる仕組みとなっています。

親も含め受験生たちにとってつらい時期ですが、人生で一番夢と希望に満ちた時でもあります。若者たちの未来に幸多かれと祈ります。



「2015 高考受験生瀋陽約4万人」
瀋陽晩報



試験会場の外で待っている親たち
(出所：新華網)

張 璐

ユジノサハリンスク駐在員事務所

【第14回「サッポロ未来展」IN サハリン】

最近、日本とロシア、サハリンと北海道の経済・ビジネス交流について、様々な情報・ニュースが出ていますが、この分野だけに限られていません。サハリンでは演劇、音楽、美術などの芸術分野で日本と深い繋がりを持っています。

最近のイベントを見ると、先日終了した『サッポロ未来展』です。5月末から2週間、ユジノサハリンスク市内の州立美術館（旧北海道拓殖銀行 豊原支店）で開催され、サハリンの住民は北海道の若手美術家21人の絵画を鑑賞することが出来ました。

ロシアでの開催は2013年のノボシビルスク以来2回目となり、14年間活動が続けられています。今回の特徴は通常の伝統的な美術と違って、日本の現代美術を楽しむことが出来ました。

展示された約50点の絵画の中には、風景画、抽象的な画像、ニューススタイル等様々な作品がありました。また、未来展メンバーや道内の高校生と一緒に作った絵馬が展示されロシア人の注目を浴びました。ロシアには絵馬の文化が無く、観客を大いに感動させました。この様な展覧会をたくさん行って欲しいという意見がロシア人から多く寄せられました。

美術をはじめとする芸術・文化は民族性を問わず、心に深い感動を与えます。豊かな文化を持つ両国が様々な分野で交流を続け、お互いを良く理解することで、更に距離が近くなると思います。



「サッポロ未来展」セレモニー



日口友好の絵馬

マリア・ヤロヴェンコ

ウラジオストク駐在員事務所

第19回太平洋国際観光展示会について



5月21日 - 23日、ウラジオストクでは沿海地方政府主催第19回太平洋国際観光展示会が開催されました。この展示会はロシア極東観光業の最大規模のイベントで、主催者発表によると、来場者数は1万9000人以上で、2万人の予測値をやや下回りましたが、沿海地方のみならず、その他の地域の報道機関による積極的な報道もあり、大きな話題になりました。今年の展示会は約300社もの代表者が参加しましたが、その内訳を見ると沿海地方の観光会社は137社、沿海地方以外のロシア国内観光会社は16社と、いずれも前年比約2倍の増加を見せました。

一方、同展示会に出展した外国会社数は135社と昨年の164社より少なかったのですが、大半の代表団はメンバーが昨年より多かったため、全体としては昨年よりも大きな注目を集めてきたと言えます。また、同展示会には延べ16ヶ国・地域の企業・関係者が参加しましたが、日本の旅行会社や医療観光等の展開を本格的に模索している医療機関も存在感を見せており、業種を超えた積極的な情報発信になりました。

アジア太平洋地域観光市場は競争の激しさを増しており、昨年末のルーブル暴落をはじめとする経済的要素も現状を更に複雑化させますが、日本旅行会社等は日本国内へのインバウンド観光者数増加及びロシア等の将来性の高い観光市場の効率的な開拓を両立させる能力が問われています。

イワン・モズゴヴォイ

カシコン銀行

「バンコクの道路事情」



渋滞する街並み

バンコクは「世界の渋滞がひどい都市ランキング」で常にトップ5に入る有数の渋滞都市です。場所と時間によっては、1kmを進むのに1時間以上かかる事もあり、歩いたほうが早いという状況がしばしば発生します。この渋滞の要因については様々な分析がなされていますが、都市全体面積における道路面積が少ない、急激な近代化による車両の急増、車に対する庶民の価値観、と言われていています。の価値観というのは、歩くと5分で汗だくになるバンコク的环境においては、渋滞の中、涼しい車の中で数時間過ごす方が良いという感覚を持つ方が多い、またはそれが富裕層としてのステータスであると考え人が多いという意味です。もちろん時間の方に価値観を置くタイの方もいらっしゃるのですが、日本人には中々理解しにくい部分でしょう。



冠水した道路の中通勤する人々

雨季にさしかかる6月はスコールがしばしば降りますが、先日夜中に振り続けた雨の影響で道路が冠水しました。政府の正式見解によると冠水の要因はなんとゴミであるとの事。水路はしっかりしているが、道端や川に浮かぶゴミが水路を塞いでしまい、水が流れないために冠水するのだとか。そんな状況でも川と化した道路を気にも留めないタイ人に遅さを感じました。

伊藤 彰浩

日中経済協会 北京事務所 札幌経済交流室

5月20日は告白デー



北京某花屋にて

5月20日は中国の若者にとって特別な日です。中国語で「あなたを愛している」は「ウォ・アイ・ニイ」と言いますが、5月20日の数字部分「520」のみを中国語で発音すると「ウウ・アール・リン」となり「ウォ・アイ・ニイ」と発音が似ていることから、ここ数年若者の間で告白デーと認知されるようになりました。告白するのに縁起が良いと考えられており、この日を目掛けて女性に告白する男性や、婚姻届を出すカップルも多いようです。

そのため、5月20日に北京の街を歩いていると、大きな花束を抱えて街を歩く男性を幾度も目撃しました。(この光景はバレンタインデーや七夕にも見ることができるようです。)日本では滅多に見られない光景でした。

中国人の感情表現は非常にストレートで、日本人特有の「空気を読む」という特性はほぼ存在しません。地下鉄での下車にしても、自ら「降ります!」と口に出して周りにアピールしないと、混雑のなか降りられないこともしばしば。このように、日本人の感覚からするとちょっと信じられないことが、中国生活では頻繁に発生します。

小笠原 宅麻